

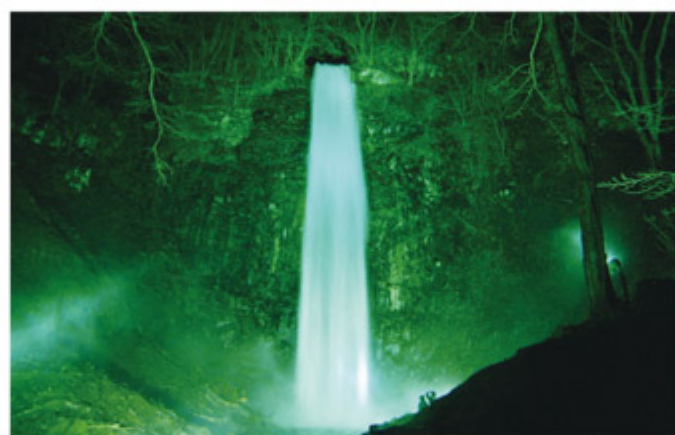
酒田市 遊佐町 庄内町 エリア



山居倉庫(C-3)

明治26年(1893)に旧庄内藩主酒井家が、米の保存と集積を目的に酒田米穀取引所の付属倉庫として建造したもので、現在も農業倉庫として使われている。櫺並木とともに12棟が立ち並ぶ景観は、米どころ庄内のシンボルとして有名。

酒田観光物産協会 TEL0234-24-2233



玉簾の滝(B-5)

落差63m・幅5mの県内随一の高さを誇る直瀑。断崖絶壁から流れ落ちる水が、陽の光で玉の簾のように見えることから、この名がついた。春と夏にはライトアップがされる期間があり、幻想的な姿が楽しめ、厳冬期には氷瀑を見ることができる。

TEL0234-64-3115(酒田市八幡総合支所建設産業課)



旧鐘屋(C-3)

酒田を代表する廻船問屋として江戸時代を通じて繁栄。酒田三十六人衆として町政にも参画。その繁栄ぶりは井原西鶴の「日本永代蔵」にも記されるほど。国指定史跡。

TEL0234-22-5001



本間家旧本邸(C-3)

本間家旧本邸は、本間家三代光丘が、幕府の巡見使一行を迎えるための本陣宿として明和五年(1768)に新築し庄内藩主酒井家に献上した、二千石格式の長屋門構えの武家屋敷。現在は企画展を開催し、大切に伝来された美術品等を公開。

TEL0234-22-3562



ウィンドーム立川(風車村)(D-4)

風や風力発電を理解するための学習施設「ウィンドーム立川」や子供たちに人気のバッテリーカー、木製遊具のある広場、庄内平野が一望できる展望台など大人も子供も楽しめるスポット。6月中旬から7月中旬にかけて鮮やかなラベンダーが咲き誇る。

TEL0234-56-3360



土門拳記念館(C-3)

酒田市生まれの写真家で、酒田市名誉市民第一号の土門拳が寄贈した全作品を収蔵した日本初の写真美術館。昭和の写真界をリードし、日本の文化と心、そして社会をテーマに多くの代表作を遺した氏の迫力のあるリアリズム写真を順次公開。

TEL0234-31-0028



本間美術館(C-3)

本間家四代当主光道が、丁持の冬期失業対策事業として、文化十年(1813)別荘を建築。六千坪の敷地内は、鳥海山を借景に林泉の風致をそえた池を中心とした回遊式の庭園、鶴舞園をはさんで本館と新館があり、鶴舞園は国指定名勝庭園。

TEL0234-24-4311



旧青山邸(B-3)

ニシン漁で巨万の富を築いた漁業王・青山留吉が、明治23年に55才で故郷の遊佐町青塚に建設した大邸宅。国指定重要文化財。

TEL0234-75-3145



舞娘茶屋 雛蔵画廊 相馬楼(C-3)

江戸時代から酒田を代表する料亭であった「相馬屋」を修復し、「相馬楼」として開楼。2階の大広間は演舞場として、酒田舞娘の踊りと食事を楽しめる。竹久夢二美術館を併設している。

TEL0234-21-2310



鳥海山(A-5)

山形県と秋田県の県境にあり、海拔0メートルから立ち上がる、標高2,236メートルの霊峰鳥海山。出羽富士ともよばれ、昔から信仰の霊山として参詣されてきた。貴重な動植物も数多くあり、チョウカイフスマ、チョウカイアザミなど多くの高山植物が花を咲かせる。

4月下旬から春・夏と、山スキーが楽しめる。



胴腹滝(A-4)

湧水のまち、遊佐町の代表ともいえる湧水スポットで、県内外からの水を汲みにくる人々が年中絶えない。祠の脇から流れる二筋の滝は味が違うとも言われている。

遊佐町観光物産係 TEL0234-72-5886

おすすめ観光ルート

